

3

人間観の自生的近代性の比較

Comparison of Autogenous Modernity in Views of Humanity

研究概要および問題提起

- 東学思想と大巡思想は韓国近代宗教哲学において重要な位置を占める
- 両思想の人間観は平等、神観、近代性などで相違する
- 本発表では人乃天、神人調化、不然其然、成事在人など主要概念を通じて人間-宇宙-神の関係と近代性の相違を考察

東学思想の人乃天概念

- **人乃天(人乃天):「人が即ち天である」という意味で、東学思想の核心**
- 破格的な平等思想—白丁と女性、子どもまでも天になりうるという主張
- 前近代社会において「天子(天子)」のみが天になりえた状況の中で、人間世界の平等を主張
- **変革的近代性を追求-西欧的近代性に符合する概念として評価される**

「人乃天(人乃天)は、内有神霊・外有気化という東学思想の天人・地人関係のうち超越的側面を排除し、内在的側面を極大化して西欧的近代性に符合するようにした概念」

大巡思想の神人調和の概念

- 神人調化(神人調化)神(上帝、神明)と人間の調和および相生の強調
- 人乃天への批判:人間は天と同等でありえず、天地の恩恵を忘却した人間の傲慢を戒める
- 解冤(解冤)と報恩(報恩):怨恨の解消と天地への恩恵報いの重要性
- 三界観(三界觀):天界・地界・人界が神明によって運行し、相互作用する
- 人間の地位は変革ではなく神明との調和を通じて漸進的に上昇

東学vs大巡人間観の比較

区分	東学思想	大巡思想
核心概念	人乃天(人乃天) 人が即ち天	神人調化(神人調化) 神と人間の調和
平等の実現	即時的、革命的変革の追求	解冤と相生を通じた漸進的実現
人-神関係	人間中心、神明概念が弱い	神明との相互作用を重視、神道(神道)を強調
宇宙観	三界(三界)概念の不足	三界(天・地・人)構造が明確
近代性の特徴	変革的、西欧的近代性に符合	自生的近代性、神人関係の再活性化

不然其然と成事在人の意味

不然其然(不然其然)

東学思想において理解できないもの(不然)も、修行を通じていずれは理解(其然)できるという意味

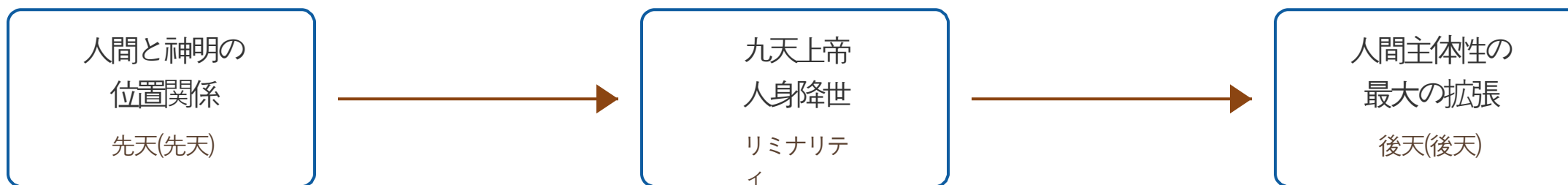
人間の理解力と道通を通じた悟りの可能性を提示

成事在人(成事在人)

大巡思想において成功は人間にかかっているという意味

先天:「謀事在人(謀事在人), 成事在天(成事在天)」→後天:「謀事在天(謀事在天), 成事在人(成事在人)」

九天上帝の人身降世以後、人間主体性の画期的変化を示唆



三界観と神明論

- 大巡思想は三界(三界)を中心に宇宙と人間 relationships を説明
- 神明(神明)は「真理に至極な」存在として天地の運行を担う
- 東学思想と異なり神明界と人間界の相互作用を強調

天界(天界)

天上界、冥府を
含む天上文明の
企画

人界(人界)

人間世界の成事
在人の主体

地界(地界)

地下界を含む科
学文明の起源

自生的近代性の相違点

東学思想の近代性

- 即時的・革命的平等実現の追求
- 変革的近代性:既存の秩序の急進的改革志向
- 人間中心の思想として西欧的近代性と接点

大巡思想の近代性

- 漸進的相生と解冤中心の変化
- 神人調和:神明と人間の相互作用の強調
- 成事在人(成事在人):人間主体性の拡張

韓国的近代性の多様性

両思想はいずれも西欧中心の近代性とは異なる韓国的自生近代性の経路を提示し、人間主体と世界観の再構成という共通点を持つが、実現方式と宇宙論的フレームにおいて差別性を示す

結論および意義

- 東学思想と大巡思想はともに韓国的自生的近代性の重要な思惟の流れを提示する
- 東学は平等と即時的変革を、大巡は解冤と漸進的相生の道を提示
- 両思想の人間観は西欧的近代性とは差別化された東西思想の接合点を示す

人乃天と神人調化は単なる宗教的概念ではなく、現代韓国社会において人間主体性と神-人関係に対する新たな思惟方式を提供する哲学的土台となる